

科目名 社会科・地理歴史科教育法I
Title Teaching Methods in Social and Geographic-Historical Studies I
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 池田 信明 (イケダ ノブアキ)

E-Mail

配当年次 1~4 単位区分 単位数 2 開講時期 前期

目的

学校現場での教科指導、群馬県教育委員会での勤務経験及び文部科学省初等中等教育局での教科調査官の勤務経験と実績を活かして、教員としての資質・能力の育成を目指すとともに、新学習指導要領の趣旨を踏まえた社会科・地理歴史科の指導の在り方について学校現場で活かせる実践的指導力を育成する。

達成目標

今日の学校や教師を取り巻く環境、教師に求められる資質・能力及び新学習指導要領の中学校社会科・高等学校地理歴史科の内容を理解するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を行うために必要な知識や技能を習得する。

スケジュール

- 第1回 授業づくりⅠ～(1)社会科・地理歴史科指導法の進め方
- 第2回 授業づくりⅠ～(2)教育のしくみと学校
- 第3回 授業づくりⅠ～(3)学校の組織と教師の仕事
- 第4回 授業づくりⅠ～(4)教師の資質・能力と社会科
- 第5回 学習指導要領～(1)社会科の成立と学習指導要領の推移
- 第6回 学習指導要領～(2)新学習指導要領と社会科(趣旨・目標・内容)
- 第7回 学習指導要領～(3)新学習指導要領と地理歴史科(趣旨・目標・内容)
- 第8回 授業づくりⅡ～指導法の研究①～学習内容に対応した指導法
- 第9回 授業づくりⅡ～指導法の研究②～評価の観点に対応した指導法
- 第10回 授業づくりⅢ～発展的な指導法の研究①～グループワークと探究的学習
- 第11回 授業づくりⅢ～発展的な指導法の研究②～アクティブラーニングの視点による指導法
- 第12回 授業づくりⅢ～評価と授業改善
- 第13回 授業づくりⅢ～学習指導案の作成①(指導計画を中心に)
- 第14回 授業づくりⅢ～学習指導案の作成②(指導方法を中心に)
- 第15回 授業づくりⅢ～学習指導案の作成③(指導細案を中心に)

教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 平成29年7月
(必携)

授業外での学習

日頃から社会の動きについて新聞等により積極的に情報収集に努めるとともに、社会科・地理歴史科に関する身近な資料等に幅広く接するよう努めること。

評価方法

学期末試験：70% 授業中に指示するレポート等課題提出物：30%

履修上の注意

- ①授業後はノートや配付資料で授業内容を確認し学習内容の定着を図ること
- ②教師としての資質や心構えを身に付けさせたいので生徒の範となる受講姿勢で受講すること。

科目名 社会科・地理歴史科教育法II
Title Teaching Methods in Social and Geographic-Historical Studies II
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 池田 信明 (イケダ ノブアキ)

E-Mail

配当年次 1~4 単位区分 単位数 2 開講時期 後期

目的

学校現場での教科指導、群馬県教育委員会での勤務経験及び文部科学省初等中等教育局での教科調査官の勤務経験と実績を活かして、教員としての資質・能力の育成を目指すとともに、新学習指導要領の趣旨を踏まえた社会科・地理歴史科の指導の在り方について学校現場で活かせる実践的指導力を育成する。

達成目標

今日の学校や教師を取り巻く環境、教師に求められる資質・能力及び新学習指導要領の中学校社会科・高等学校地理歴史科の内容を理解するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を行うために必要な知識や技能を習得する。

スケジュール

- 第1回 授業の進め方① (子供の学びと指導)
- 第2回 授業の進め方② (教材開発と指導～情報機器を中心に)
- 第3回 授業の進め方③ (アクティブラーニングの進め方～協働学習を中心に)
- 第4回 学習指導案の作成① (授業設計を中心に)
- 第5回 学習指導案の作成② (指導細案を中心に)
- 第6回 学習指導案の作成③ (指導と評価を中心に)
- 第7回 模擬授業① (受講者による授業実習と授業後の検討)
- 第8回 模擬授業② (受講者による授業実習と授業後の検討)
- 第9回 模擬授業③ (受講者による授業実習と授業後の検討)
- 第10回 模擬授業④ (受講者による授業実習と授業後の検討)
- 第11回 模擬授業⑤ (受講者による授業実習と授業後の検討)
- 第12回 模擬授業⑥ (受講者による授業実習と授業後の検討)
- 第13回 総合考察① (模擬授業のまとめと授業改善)
- 第14回 総合考察② (社会科地理歴史科の授業づくり)
- 第15回 総合考察③ (社会科地理歴史科の授業と教師の資質向上)

教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 平成29年7月
(必携)

授業外での学習

日頃から社会の動きについて新聞等により積極的に情報収集に努めるとともに、社会科・地理歴史科に関する身近な資料等に幅広く接するよう努めること。

評価方法

学期末試験：70% 授業中に指示するレポート等課題提出物：30%

履修上の注意

- ①授業後はノートや配付資料で授業内容を確認し学習内容の定着を図ること
- ②教師としての資質や心構えを身に付けさせたいので生徒の範となる受講姿勢で受講すること。

科目名 社会科・公民科教育法I
Title Teaching Methods in Social Studies and Civics I
科目区分 教職関連科目(両学部共通)

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 高橋 順一(タカハシ ジュンイチ)

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1~4		2	前期

目的

中・高等学校での教員経験、NHK高校講座(ラジオ)「政治・経済」を立ち上げ・出演した経験等を活かし、プロの教師として求められる実践力を養成する。中学校社会科や公民科の学習指導案の作成や実践に役立つ模擬授業等を行う。

達成目標

中学校社会科・公民科教師として、教科の目標や内容を理解した魅力的な授業ができる実践力を養成する。

スケジュール

第1回	オリエンテーション		
第2回	我が国の学校教育の置かれた状況	その1	国際社会のグローバル化と求められる学力
第3回	我が国の学校教育の置かれた状況	その2	「生きる力」と確かな学力、学校教育の課題
第4回	社会科・公民科教育の歩み	その1	学習指導要領改訂の歴史
第5回	社会科・公民科教育の歩み	その2	「公共」の目標と内容
第6回	教育法規		
第7回	生徒理解		
第8回	中学校社会科の目標と主な内容		
第9回	中学校社会科における評価		
第10回	公民科の目標と主な内容		
第11回	公民科における評価		
第12回	中学校社会科・公民科の学習内容と学問分野	その1	政治学、経済学等
第13回	中学校社会科・公民科の学習内容と学問分野	その2	哲学、心理学等
第14回	諸外国における公民科教育		アメリカほか
第15回	模擬授業	その1	中学校社会科

教科書・参考文献

教科書 自作プリント 「中学校学習指導要領解説 社会編」、「高等学校学習指導要領解説 公民編」

参考書 適宜、紹介する

授業外での学習

教育や公民科にかかわる新聞記事や新刊書を積極的に読むとともに、授業で課せられるレポートを必ず提出する。

評価方法

テスト(50%)及び毎回課されるレポート等提出物(50%)を基本として、総合的に評価する。

履修上の注意

指導する立場を実践研究する授業であるので、受講態度を重視する。授業中のスマホ等の使用や、飲食、私語は厳禁、マナーを守れる学生のみ受講可。2年次以上の受講が望ましい。

科目名 社会科・公民科教育法II
Title Teaching Methods in Social Studies and Civics II
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 高橋 順一 (タカハシ ジュンイチ)

E-Mail

配当年次 1~4 単位区分 単位数 2 開講時期 後期

目的

中・高等学校での教員経験、NHK高校講座(ラジオ)「政治・経済」を立ち上げ・出演した経験等を活かし、プロの教師として求められる実践力を養成する。中学校社会科や公民科の学習指導案の作成や実践に役立つ模擬授業等を行う。

達成目標

中学校社会科・公民科教師として、教科の目標や内容を理解した魅力的な授業ができる実践力を養成する。

スケジュール

第1回 オリエンテーション
第2回 社会科・公民科と他教科との関連 家庭科 商業科 ほか
第3回 社会科・公民科における教材の活用 その1 新聞や文献等の活用及び留意点について
第4回 社会科・公民科における教材の活用 その2 学習レポートやビデオ教材等の活用上の留意点
第5回 個に応じた授業設計
第6回 学習指導案の構造
第7回 学習指導案の作成
第8回 教育実習での社会科・公民科の指導
第9回 模擬授業 その2 「現代社会」
第10回 模擬授業 その3 「現代社会」
第11回 模擬授業 その4 「倫理」
第12回 模擬授業 その5 「政治・経済」
第13回 模擬授業 その6 「政治・経済」
第14回 模擬授業 その7 「政治・経済」
第15回 授業改善の方策とこれからの社会科・公民科教育

教科書・参考文献

教科書 自作プリント 「中学校学習指導要領解説 社会編」、「高等学校学習指導要領解説 公民編」

参考書 適宜、紹介する

授業外での学習

教育にかかわる新聞記事や新刊書を積極的に読むとともに、授業で課せられるレポートを必ず提出する。

評価方法

テスト(50%)及び毎回課されるレポート等提出物(50%)を基本として、総合的に評価する。

履修上の注意

指導する立場を実践研究する授業であるので、受講態度を重視する。授業中のスマホ等の使用や、飲食、私語は厳禁、マナーを守れる学生のみ受講可。2年次以上の受講が望ましい。

科目名 商業科教育法I
Title Teaching Methods of Business I
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員
非常勤講師 吉田 統久 (ヨシダ ノリヒサ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1~4

単位区分

単位数
2

開講時期
前期

目的

教育関係法令や学習指導要領における教科「商業」の意義や目的・目標を明らかにするとともに、全国の商業高校の教育課程表を参考にして、学習者の理想と考える商業教育の教育課程表を考察する。また、大学で学ぶ経済、経営、簿記会計、情報等の専門的な知識・技術を、高校教育の場で実際に生かす力の育成も主眼とする。

達成目標

学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の実践力及び教科「商業」の専門的な指導力を高めようとする意欲的な態度の育成をポイントに、将来、高校の教員として商業教育を担当するにふさわしい資質・能力を身に付けることを達成の目標とする。

スケジュール

- 第1回 商業教育の目的と商業関係法令
- 第2回 高等学校における商業教育の必要性
- 第3回 我が国の商業教育の歩み
- 第4回 高等学校管理規則について
- 第5回 学習指導要領について
- 第6回 商業科の目標について
- 第7回 商業科の科目の編成について
- 第8回 ビジネス基礎の目標と内容についての取り扱い
- 第9回 マーケティング分野科目群について
- 第10回 ビジネス経済分野科目群について
- 第11回 会計分野科目群について
- 第12回 ビジネス情報分野科目群について
- 第13回 総合的な科目について
- 第14回 商業高校の教育課程の考察 (専門高校を中心として)
- 第15回 商業科併設高校の教育課程の考察

教科書・参考文献

教科書 「高等学校学習指導要領解説 商業編」

参考書 「教職必修最新商業科教育法」 岡田修二他共著 (実教出版)

授業外での学習

新聞等社会への関心を持って取り組む

評価方法

課題・実習 50% テスト 50%

履修上の注意

商業科教育法I・IIの履修が望ましい

科目名 商業科教育法II
Title Teaching Methods of Business II
科目区分 教職関連科目(両学部共通)

担当教員
非常勤講師 吉田 統久(ヨシダ ノリヒサ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------	----------	------------

目的

高等学校における効果的な商業に関する教科・科目の指導方法を学ぶ。
教育関係法令や学習指導要領における教科「商業」の意義や目的・目標を明らかにするとともに、年間指導計画や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、教科商業における種々の指導技術を実際的・体験的に学習する

達成目標

学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の実践力及び教科「商業」の専門的な指導力を高めようとする意欲的な態度の育成をポイントに、将来、高校の教員として商業教育を担当するにふさわしい資質・能力を身に付けることを達成の目標とする。

スケジュール

- 第1回 学習指導要領の改訂に伴っての商業科の目標の変遷について
- 第2回 マーケティング分野を中心とした教育課程の編成について
- 第3回 マーケティング分野の学習指導案・年間指導計画について
- 第4回 ビジネス経済分野を中心とした教育課程の編成について
- 第5回 ビジネス経済分野の学習指導案・年間指導計画について
- 第6回 会計分野を中心とした教育課程の編成について
- 第7回 会計分野の学習指導案・年間指導計画について
- 第8回 ビジネス情報分野簿記の学習指導案の作成
- 第9回 ビジネス情報分野の学習指導案・年間指導計画について
- 第10回 「ビジネス基礎」の学習指導案の作成
- 第11回 「簿記」の学習指導案の作成
- 第12回 「経済生活と法」の学習指導案の作成
- 第13回 「簿記」の研究授業
- 第14回 「ビジネス基礎」の研究授業
- 第15回 商業教育の現状

教科書・参考文献

教科書 「高等学校学習指導要領解説 商業編」

参考書 「教職必修最新商業科教育法」 岡田修二他共著(実教出版)

授業外での学習

新聞等社会への関心を持って取り組む

評価方法

課題・実習 50% テスト 50%

履修上の注意

商業科教育法Iを先に履修することが望ましい

科目名 教育原理
Title Principles of Education
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員 担当教員との連絡方法
名誉教授 池野 正晴 (イケノ マサハル)

E-Mail

配当年次 1	単位区分	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------	----------	------------

目的

- 教育事象・教育現象や教育活動について哲学的・科学的に探究し、教育及び教師のあるべき方向について自分なりに考える力を修得する。

達成目標

- 1 教育の本質・目的についてさまざまな考え方及びその違いが理解できる。
- 2 さまざまな教育思想が理解できる。
- 3 教育事象・教育現象について、自分なりに考えることができる。

スケジュール

- 第1回 教育とは何かI - 「教」と「育」 -
- 第2回 教育とは何かII - 「教育」の出現 -
- 第3回 人間モデルの教育I - 手細工モデルと農耕モデル -、家族と社会
- 第4回 人間モデルの教育II - 飼育モデル -、現代の教育課題
- 第5回 人間モデルの教育III - 人間モデル -、教育制度の歴史と発展
- 第6回 実存モデル・非連続的形式の教育I - 実存哲学と実存モデル -
- 第7回 実存モデル・非連続的形式の教育II - 新たな連続性モデルと教育的雰囲気 -
- 第8回 新優生学と教育の問題I - パーフェクト・ベイビーと優生学、発達障害 -
- 第9回 新優生学と教育の問題II - 新優生学の登場 -
- 第10回 新優生学と教育の問題III - ハーバース、ルーマン、レヴィナス、サンデル -
- 第11回 教育思想の4つのパターン (アメリカ)
- 第12回 社会と教育 - 脱学校論、銀行型教育批判等 -
- 第13回 教育諸現象 (いじめ等) における哲学的考察
- 第14回 道徳教育を哲学する
- 第15回 性の多様性と特別ニーズ教育の問題

教科書・参考文献

- 教科書 ○ 池野作成『教育原理 / 教育哲学』、2019年 (印刷教材 / 配付)
- 参考書 ○ 池野正晴『新しい時代の授業づくり』、東洋館出版社、2017年 (5刷)
○ 寺崎・古沢・増井・池野他『名著解題』、協同出版 (教育課程新書)、2009年

授業外での学習

- 次回の該当箇所をよく読んで、ノートにまとめておく。
- 印刷テキストの、次回該当箇所の空欄部分について、自分なりに考えて、用語をうめておく。
- レポートとして取り上げたいテーマについて、経験や新聞・参考文献等を集め、少しずつまとめておく。

評価方法

- レポート試験 60%
- 参画度 40% (コメント、グループ討論、貢献度、授業への積極的な参加度等)

履修上の注意

- 参考文献・参考図書等については、その都度紹介する。
- 受講にあたりたいせつなことは、「その場において考え、話し合いに参加すること」であり、そのことが「哲学する」ということにつながる。
- ペアワークやグループ討論では、相手の意見を尊重しながら聴くようにする。

科目名 教育学
Title Education
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員
准教授 吉原 美那子 (ヨシハラ ミナコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 後期
-------------	-------------	----------	------------

目的

本講義は「教育学」の入門編である。教育の基礎的概念、そして理論・歴史・思想の基本的な知識を学び、「教育とは何か」という問いを多角的かつ客観的に理解することを目的とする。全体は、(1)教育の本質と教育思想、(2)公教育の概念と教育制度、展開、(3)学校教育のあり方と今日的課題、(4)現代社会における教育問題と子ども、の4構成から成り立っている。これらにより、教育という営みについて理解を深め、教育の様々な事象に対し自らの考えをもつ力を培うことを目指す。

達成目標

本授業のテーマは教育の本質を学ぶことである。本授業の達成目標は次の通りである。

1. 教育の思想、歴史的事項、制度を体系的に理解する。
2. 学校の意義について多角的に議論することができる。
3. 社会の変容と子ども・若者との関係を説明することができる。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション:講義の概要と進め方、評価方法の説明、導入講義
- 第2回 教育の本質① 「教育」の語源、「教育」とは何かを考える
- 第3回 教育の本質② 人間の発達段階と教育、歴史からみる“子ども”
- 第4回 教育の本質③ 教育の思想家から学ぶ教育理論と実践 (古代から近代)
- 第5回 教育の本質④ 教育の思想家から学ぶ教育理論と実践 (近代から現代)
- 第6回 公教育の概念と制度① 教育の歴史、そもそも「学校」とは?
- 第7回 公教育の概念と制度② 近代教育制度の成立、教育の義務化と教育を受ける権利の確立
- 第8回 公教育の概念と制度③ 公教育制度の基本原則
- 第9回 現代の学校教育① 学校の知と学校文化
- 第10回 現代の学校教育② 学校の意義 (ディベート) と脱学校論
- 第11回 現代の学校教育③ 諸外国の学校教育制度
- 第12回 現代の学校教育④ 日本と諸外国の学校文化を比較する
- 第13回 現代の子ども: 現代社会と子ども・家庭の変容
- 第14回 教育と子ども: 教育機会の平等と格差問題
- 第15回 総括、現代における教育の諸問題について議論する

教科書・参考文献

教科書 勝野正章他(2015)『問いからはじめる教育学』有斐閣ストウディア
毎回プリント(ノート用及び資料)を配布する

参考書 藤田英典・田中孝彦・寺崎弘昭『教育学入門』岩波書店、1997年。安彦忠彦・石堂常世『現代教育の原理と方法』勁草書房、2004年。陣内靖彦・穂坂明徳・木村敬子『教育と社会』学文社、2012年。

授業外での学習

配布するノート用プリントを完成させること(復習)。授業中に数回課題を提示するので、必ずやってくる。授業で設定するワークショップはこれらの課題をやってくるのが前提となる。

評価方法

課題・グループディスカッション(30%)、期末試験(70%)を基本に、総合的に判断して評価する。

履修上の注意

日頃から教育に関わるマスメディアの情報や書籍、専門誌に目を通すことを期待する。また、履修者同士のディスカッションの場を設けるので、その点を考慮した上で履修してほしい。ディスカッションが苦手な場合であっても教員が支援する。また、履修者の興味関心や提示した課題の進行具合によって、講義のテーマもしくは内容が前後することがあることに留意されたい。

科目名 教育と社会
Title Education and Society
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員
非常勤講師 松浦 富士夫 (マツウラ フジオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 後期
-------------	-------------	----------	------------

目的

さまざまな視点から現代社会と教育の関係や政治・教育行政と教育との関係を考える。また、今日まで行われてきたさまざまな教育改革について学び、そのあり方を問う。さらに、教育思想家や庶民教育機関において行われた教育に学び、その本質や意味を理解する。

達成目標

「教育改革」というテーマのもと、教育の本質と歴史の理解の上に立って、さまざまな視点から教育の諸問題について考える力を養う。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション (授業概要説明)
- 第2回 日本の社会と教育
- 第3回 人間教育の視点から見た教育の現状と課題
- 第4回 地域社会・学校・家庭 -その現状と課題-
- 第5回 教育基本法 -制定の背景とその精神-
- 第6回 戦後教育改革1 (教育の理念や学制など)
- 第7回 戦後教育改革2 (新制大学の発足や教育養成など)
- 第8回 戦後教育改革の後退 (中央教育審議会設置を起点とする)
- 第9回 新自由主義的教育改革1 -その背景と方向性-
- 第10回 新自由主義的教育改革2 (大学審議会設置を起点とする大学改革)
- 第11回 教育基本法改正 -その背景と改正点-
- 第12回 改正基本法を起点とする教育改革の動向
- 第13回 庶民教育機関で行なわれた教育
- 第14回 ルソーの教育思想に学び教育の本質を考える
- 第15回 永杉喜輔の教育学に学び教育の本質を考える

教科書・参考文献

教科書 毎回授業の概要を配布する

参考書 ルソー『エミール』(1962,岩波書店)
山住正巳『日本教育小史』(1987,岩波書店)

授業外での学習

社会や教育の動向に関心を持ち、新聞記事等に目を通すこと

評価方法

レポート30点。定期試験50点。平常点20点。

履修上の注意

オリエンテーションに必ず出席し、授業概要を十分理解した上で履修すること

科目名 教職原論
Title Principles of Teaching Profession
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員
非常勤講師 大佐古 紀雄 (オオサコ ノリオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 後期
-------------	-------------	----------	------------

目的

教職は、こどもの育ちに大きく関わり、また日本の未来さえも左右する、社会的な意義が非常に大きい職業である。教職免許を取得しようとする者は、その職責の重さを十分理解することが求められる。本講は、教職が社会的に有する重要性と現代的な意義、教員の役割、資質能力、職務の内容、教職における服務義務や身分保障を理解し、その理解を基盤として、教職への適性をみずから見極めながら教職の世界全体へと理解を拡げる一連の過程を通じて、教職に向けた意識形成を図ることを目的とする。

達成目標

- ① 教職観の変遷を踏まえて現代の教員に求められる資質能力を理解する。
- ② 教職免許に関する制度、教員の服務義務や身分保障を理解する。
- ③ 教員の多様な職務内容を理解し、研修などで学び続ける必要性和その内容について理解する。
- ④ 「同僚性」形成、協働関係、チーム学校の重要性を理解する。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション、受講生がこれまでに教職者と関わってきた経験の振り返り
- 第2回 日本における教職観の変遷
- 第3回 法令から読み解く教職の意義
- 第4回 教員に求められる役割と資質能力ー近年の審議会答申などを読み解くー
- 第5回 教員の多様な職務内容を探る
- 第6回 教育職員免許法に定める教員の種類と養成
- 第7回 教員の服務義務と身分保障
- 第8回 学び続ける教員であるためにー生涯にわたる研修を理解するー
- 第9回 「同僚性」と「チーム学校」
- 第10回 教師の実際に学ぶ (1)ーある中学英語教師からー
- 第11回 教師の実際に学ぶ (2)ーある小学校教師からー
- 第12回 他の職業と比べる (1)ー研修医との比較ー
- 第13回 他の職業と比べる (2)ー法務教官との比較ー
- 第14回 教師の実際に学ぶ (3)ーある小学校校長の実践からー
- 第15回 まとめー教職の意義を再考する

教科書・参考文献

教科書 羽田積男・関川悦雄編『現代教職論』(弘文堂:2016年)を使用する。

参考書 必要に応じて適宜配布する。

授業外での学習

教職への意識をみずから高めるために、日頃から教員や学校に関する話題に鋭敏なアンテナを立てておいてほしい。

評価方法

- * 毎回の授業の振り返り(リフレクションシート) 50%
- * 定期試験 50%
- * 平素の受講状況 評価に反映すべき要素があれば適宜加点・減点する。

履修上の注意

昨今の学校や教員に対する社会のまなざしの厳しさに鑑みて、相応の受講態度で臨むこと。シラバスの内容や順序は、本講の目的・目標を逸脱しない範囲で変更されることがある。

科目名 教職原論
Title Principles of Teaching Profession
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員
准教授 吉原 美那子 (ヨシハラ ミナコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 前期
-------------	-------------	----------	------------

目的

教職は、学校における公教育を通じて子どもたちの育ちに大きく関わる職業であり、かつ社会的意義が非常に大きい職業でもある。教職免許を取得しようとするのであれば、その職責の重さを理念的かつ実践的に理解することが求められる。そこで本講義では、受講者もつ教職者との関わり方の経験を出発点に、教職観の変遷と現行法令や関連の審議会答申などから読み解く教職の意義および教員の役割・資質能力について講ずる。次に、教員の職務内容や教育職員免許法の内容（免許の種類や養成）、教員の服務義務と身分保障を扱う。さらに、法定研修も含めた研修のあり方と学校内での「同僚性」と「チーム学校」について扱い、実際の教員や他職種との比較を取り入れて、最後に教職の意義を再考する機会を設ける。

達成目標

- ① 現代において教員が果たすべき役割や求められる資質能力を理解する。
- ② 教職免許に関する制度、教員の服務義務や身分保障を理解する。
- ③ 教員の多様な職務内容と研修制度、「学び続ける教員」の意味について理解する。
- ④ 学校内における教職員との「同僚性」形成、学校に関わる多様な専門家・関係者や地域の人々との協働関係の

スケジュール

- 第1回 ガイダンスと導入講義：受講者がこれまでに教職者と関わってきた経験の振り返り
- 第2回 教職の意義と教員に必要な資質能力① 教師の仕事は何かから考える
- 第3回 教職の意義と教員に必要な資質能力② 教師観の変遷、政策・学術から考える資質能力
- 第4回 教職の意義と教員に必要な資質能力③ 臨床から考える資質能力、目指す教師像を考える
- 第5回 教職への道と教員養成の仕組み、教員免許制度
- 第6回 教員の職務① 学習の意義と目的、体系的方法、学習指導要領の動向
- 第7回 教員の職務② 生徒-教員の関係構築、生徒指導の実践
- 第8回 教員という職の特性① 教員の文化
- 第9回 教員という職の特性② 教員の地位と身分、服務
- 第10回 教員という職の特性③ 教員の学び（研修）
- 第11回 教員という職の特性④：教員の専門職性、同僚性
- 第12回 学校の組織①：学校職員、校務分掌、教員の同僚性からチーム学校へ
- 第13回 学校の組織②：学校評価、学校と他機関との連携
- 第14回 教師論議：グループ・ディスカッション
- 第15回 総括、教職への道と自らの適性

教科書・参考文献

- 教科書 佐藤晴雄著(2015)『教職概論(第4次改訂版)』学陽書房
書き込み式講義ノート及び資料プリントをほぼ毎回配布する。課題やレポート等に必要な文献は、授
参考書 レポート等に必要な文献は、授業中に指示する(課題図書を選択)。また、参考になる資料等は必要に応じて授業中に紹介する。

授業外での学習

第1回のガイダンスにて、毎回の授業についての、授業内容の理解に必要とされる教科書範囲もしくは課題プリントの説明を行う。指示に従い、必ずやっておくこと。これらの他、自ら進んで上記の参考文献やその他の関連文献、インターネットにて政策文書などをあらかじめ読んで把握しておくこと。

評価方法

授業中に提示された課題プリント(20%)及び中間テスト(30%)、期末レポート(50%)を基本に、総合的に判断して評価する。

履修上の注意

教職課程の導入科目です。教職課程の履修の相談にも応じます。
授業は講義だけでなく映像資料も使って進めます。ディスカッションも随所に行うので、積極的な姿勢を期待します。第14回に予定されているグループ・ディスカッションは履修者の学習の状況により、前倒して行うこともあります。

科目名 教育経営論

Title

科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 高橋 望 (タカハシ ノゾム)

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数
2

開講時期
前期

目的

現代の公教育は、法に基づいて運営されており、教育をめぐる諸問題を社会的な文脈で理解する際には教育法規についての基礎的な理解が不可欠であり、その上で、より良い教育のあり方についての考察が求められる。そこで本講義では、現代日本の教育法規の概要を理解したうえで、教育を、しいては学校を動かす仕組みや教育にかかわる具体的な諸問題を、自らの視点で捉えなおしていく力を養うことを目的として設定する。

達成目標

- 教育に関する仕組みと経営について理解できるようになること。
- 学校現場における具体的事例に対して、法的根拠に基づいた対応ができるようになること。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション (法から学ぶ教育経営)
- 第2回 教育の基本理念① (日本国憲法における教育関連規定など)
- 第3回 教育の基本理念② (教育基本法の内容、改正の論点など)
- 第4回 教育行財政① (中央・地方の教育行政組織など)
- 第5回 教育行財政② (設置者管理・負担主義など)
- 第6回 学校教育に関する規定と学校経営① (学校教育法、学校の種類など)
- 第7回 学校教育に関する規定と学校経営② (学校組織編制、校内研修、学校評価、教員評価など)
- 第8回 教職員に関する規定 (教員の職務と職務、教員免許、県費負担教職員など)
- 第9回 児童・生徒に関する規定と学級経営 (懲戒、体罰、効果的な学級経営など)
- 第10回 教育内容・教科書に関する規定 (教育課程編成、学習指導要領、教科書制度など)
- 第11回 学校保健・安全に関する規定 (伝染病予防、健康診断、学校給食など)
- 第12回 特別支援教育に関する規定 (特別支援学校制度、通級など)
- 第13回 学校の危機管理
- 第14回 保護者・地域住民と学校
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 初回授業時に紹介する。

参考書 牛渡淳,高橋望他『初めて学ぶ教育の制度・行政・経営』金港堂出版,2011年
高妻紳二郎,高橋望他『新・教育制度論』ミネルヴァ書房,2014年

授業外での学習

授業前: 関連する雑誌、新聞記事等に目を通すよう心がけること。
授業後: 配布した資料等を再度確認し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

期末試験 (60%) と平常点 (40%) により評価する。平常点は、講義内で実施するリアクションペーパー、授業態度・授業への貢献度等によって評価する。

履修上の注意

- 発言を求められることが多くなるので、自らの考えをもち、積極的に参加することを求める。
- 教育問題に関心を持ち、日頃から新聞等に目を通すことを求める。
- 授業と関係のない私語は厳禁とする。

科目名 教育政策論
Title Educational Policies
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

准教授 吉原 美那子 (ヨシハラ ミナコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2~4	要件外	2	前期

目的

本講義は、教育行政学、教育社会学、教育制度論に基づく知識から、教育活動の枠組みとしての社会的、制度的、経営的な事項について学ぶことを目的とする。人々の学びを保障する諸条件整備のための力学と仕組みづくりを把握した上で、我が国あるいは地方自治体、各地域の教育政策の方向性を研究する力を養う。加えて、諸外国の教育政策の動向を鑑み、グローバル化が進みかつ成熟された社会にとって必要な教育のあり方について考える。

達成目標

1. 公教育制度の原則、教育行政の組織と役割、学校組織の基礎的な知識を理解する。
2. 現代の社会の状況と子どもの学びの環境の変化、今の学校が抱えている問題を自ら見出し論じることができる。
3. 学校と諸機関との関係を把握した上で、学校と地域との連携の意義と課題、学校の危機管理の必要性と手法

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション:講義の概要と進め方、評価方法の説明、公教育制度の原則、子どもと学校をめぐる状況
- 第2回 グローバル時代の教育政策①:世界の動向
- 第3回 グローバル時代の教育政策②:日本はどちらに進むべきか?
- 第4回 国と地方自治体の教育行政の仕組み①:教育行政の理念と定義、国の教育行政を担う機関
- 第5回 国と地方自治体の教育行政の仕組み②:地方の教育行政を担う機関、地方分権と地方自治体の教育改革
- 第6回 公教育制度の原則と教育費
- 第7回 学校の組織と運営① 学校と教育委員会との関係、法令からみる教職員、学校組織
- 第8回 学校の管理と運営② 学校管理・運営に関する法規と運用、学校安全管理
- 第9回 学校と地域社会① 学校と地域社会との協働をめぐる教育政策動向、意義と問題点
- 第10回 学校と地域社会② 学校と地域づくり、協働の事例(安全管理も含む)
- 第11回 学校と地域社会③ 地域の教育施策や教育の諸課題を考える(ワークショップ)
- 第12回 新自由主義と教育政策① 新自由主義の教育政策事例、世界の教育政策
- 第13回 新自由主義と教育政策② 学校の多様化・学校改革
- 第14回 学校をつくる、学校を選ぶとは?(ワークショップ)
- 第15回 総括

教科書・参考文献

教科書 小松茂久(編)『教育行政学』昭和堂、2013年。その他、毎回プリントを配布する。

参考書 坂田仰 他(2017)『図解・表解 教育法規』教育開発研究所
加藤崇英 他(2016)『新訂版 教育の組織と経営』学事出版

授業外での学習

次回の授業範囲に関連する項目について、教科書または参考書を読んでおくこと。メディア等などによる教育政策に関わる情報を収集しておくこと。授業内で課題を提示するので、必ずやってくること(課題はワークショップ等で使用する)。

評価方法

レポートやワークショップ等における課題(40%)、期末試験(60%)を基本に、総合的に判断して評価する。

履修上の注意

ワークショップの準備として、日頃から関連する書籍や新聞、専門誌に目を通すことを期待する。授業は、履修者とのディスカッションやレポートを通して進めていくので、それによって講義のテーマもしくは内容は前後することがあるので、留意されたい。

科目名 生涯学習概論
Title Lifelong Learning
科目区分 教職関連科目(両学部共通)

教授 櫻井 常矢(サクライ ツネヤ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1~4	要件外	2	前期

目的

生涯学習とは、少子高齢化など、急激な社会構造の変化への対応という観点から、従来の日本の教育システム(学校教育・社会教育・家庭教育等)を総合的に再編成するものである。生涯学習の理念とその展開には、諸外国それぞれ固有のものがあるが、日本における生涯学習とはどのように導入され、具体的な制度・政策の中に現われているのであろうか。これを社会教育(行政・施設、地域学習等)、学校教育(教育課程、学力・評価等)の構造・変容や現代の地域づくり実践等との関連から着目し、現代社会における生涯学習の意味と展開について考察する。講義では、生涯学習論に必要な基礎知識として学校教育及び社会教育の法制度に関する説明も随時加える。

達成目標

諸外国の学習社会論などをもとに生涯学習の理念について理解を深めながら、日本の生涯学習政策の特徴や課題について整理できるようになる。

スケジュール

- 第1回 インタロクセッション：講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 学校教育と「成人の学習」：日本社会における教育・学習 コミュニティ
- 第3回 生涯学習の理念(1)：ホールラングランドレポート
- 第4回 生涯学習の理念(2)：学習社会論/フォーラム報告書
- 第5回 労働社会と生涯学習：技術革新/情報化/労働市場政策
- 第6回 少子高齢化・家族の変化と生涯学習：高齢社会/ライフコースの多様化/女性の生き方
- 第7回 社会教育とは何か：法制度/学習内容/方法/社会教育主事
- 第8回 日本における生涯学習政策の形成(1)：「生涯教育」の登場と経済界の動き
- 第9回 日本における生涯学習政策の形成(2)：臨時教育審議会答申
- 第10回 日本における生涯学習政策の形成(3)：生涯学習振興法
- 第11回 生涯学習の実践と公共性：学習内容/方法/支援者
- 第12回 リカレント教育と大学・自治体・企業：生涯学習社会に果たす大学、企業、自治体との役割
- 第13回 まちづくりと生涯学習：自治体生涯学習の特徴と課題
- 第14回 分権時代の生涯学習：分権社会による生涯学習への要請とその課題
- 第15回 まとめ：これからの生涯学習とは

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 佐々木正治編『21世紀の生涯学習』福村出版,2000年、田中雅文他著『テキスト生涯学習』学文社,2009年、『社会教育・生涯学習ガイドブック第9版』エイデル研究所,2017年 ほか。

授業外での学習

今回の講義範囲に関連する内容について、講義内で指定(配布)した資料などをよく読んで予習をしておくほか新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また講義後は、必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着を図ること。

評価方法

受講状況並びに講義期間中の課題(小テスト・レポート等)そして定期試験によって総合的に評価する。受講状況と講義期間中の課題(30%)、定期試験(70%)として考慮する。

履修上の注意

特に教科書は使用せず適宜必要な資料等を多く配布するため、各自がよく整理をして積極的に講義に参加すること。

科目名 地域づくり教育論
Title Education for Community Development
科目区分 教職関連科目(両学部共通)

担当教員
教授 櫻井 常矢(サクライ ツネヤ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2~4	要件外	2	前期

目的

近年、少子高齢化、過疎、環境問題、国際化、子育てなどの地域課題の深刻化とともに、市民参加や協働(パートナーシップ)によるまちづくり、青年世代や団塊世代の労働や社会参加、あるいは、地域コミュニティの再生・創造に向けた様々な実践が各地で展開しつつある。そこではまた、地域づくりに対応した学習や社会参加活動が実践的に追求されている。社会参加の推進は生涯学習社会を具体的に支える重要な要素となる。本講義では、ボランティア(図書館・博物館等の施設ボランティア含む)、市民活動・NPO、学社融合、大学開放などの新たな社会をつくる学びについて着目し、その特性への理解を深める。特に、NPOの教育力を取り上げ、地域づくりにかかわる具体的な実践をもとに、現代社会における学習の共同性や公共性を再検討し、分権時代に果たす生涯学習の役割を展望する。

達成目標

日本の生涯学習政策が抱える課題への理解を前提としながら、①NPOがもつ教育力特性への理論的理解を深めること、②具体的事例の検討を通して、現代生涯学習に果たすNPOの可能性と課題について自分なりの見解を得ることを到達目標とする。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション : 講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 生涯学習政策の展開と市民の学び : 国家・市場・地域と教育・学習 コミュニティ
- 第3回 ボランティア・NPOと生涯学習 : なぜ今、NPOなのか / NPOの実践と生涯学習
- 第4回 生涯学習社会と地域づくり教育(1) : 家庭教育・学校教育・地域づくり教育
- 第5回 生涯学習社会と地域づくり教育(2) : Non Formal Educationの構造と機能
- 第6回 NPO / 市民活動の学習内容・方法(1) : NPOの組織特性・社会教育的性格
- 第7回 NPO / 市民活動の学習内容・方法(2) : NPOの組織構造と「参加」
- 第8回 規制緩和・地方分権と生涯学習 : 民営化戦略としてのNPO
- 第9回 NPOの教育力 実践事例(1) : 地域コミュニティ再生とNPO
- 第10回 NPOの教育力 実践事例(2) : 社会教育施設運営とNPO
- 第11回 NPOの教育力 実践事例(3) : 中間支援組織(施設)における教育・学習
- 第12回 NPOの教育力 実践事例(4) : 地域生涯学習を支える人材・組織の課題と展望
- 第13回 地域コミュニティ再生と生涯学習 : 東日本大震災・復興支援の実践から
- 第14回 分権社会における生涯学習システム 地域をつくる市民の学び
- 第15回 まとめ : 現代生涯学習の展望と課題

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 下記のほか適宜紹介する。佐藤一子編『NPOの教育力』東京大学出版会,2004年、松田武雄編著『現代の社会教育と生涯学習』九州大学出版会,2013年

授業外での学習

今回の講義範囲に関連する内容について、講義内で指定(配布)した資料などをよく読んで予習をしておくほか新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また、講義後は必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着を図ること。

評価方法

受講状況並びに講義期間中の課題(小テスト・レポート等)そして定期試験によって総合的に評価する。受講状況と講義期間中の課題(30%)、定期試験(70%)として考慮する。

履修上の注意

- ◇生涯学習概論の内容を前提とした講義展開のため、生涯学習概論を受講していることが望ましい。
- ◇講義は、適宜必要な資料等を取り上げるとともに、できるだけ具体的な事例に即して考えていく。

科目名 教育制度論

Title

科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 高橋 望 (タカハシ ノゾム)

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数
2

開講時期
前期

目的

近年教育改革は、国と地方問わずさまざまなレベルにおいて重要な課題として取り組まれている。改革をめぐる議論において何が問題とされ、何が行われようとしているのか。また、改革は結果として教育の場に何をもちたらずのか。本講義は、現代社会における教育問題・事象について理解し、それらに対する自分自身の考えを持つこと、また他者と議論できるようになることを目指す。身の回りの「教育的」事項に気づき理解できるようになること、現代の教育の仕組み、制度について理解できるようになること、自分自身の教育観を持つことができるようになることを目的とする。

達成目標

- 公立初等中等学校の現状、抱える問題等について理解することができること。
- それらに対する自分自身の考えを持ち、他者と議論できるようになること。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育の領域・場所・目的
- 第3回 学校制度と義務教育
- 第4回 教育制度・行政・政策
- 第5回 学校組織と学校経営
- 第6回 教師教育
- 第7回 教育課程と学力問題
- 第8回 学歴と社会階層
- 第9回 メディアと教育
- 第10回 外国人子女と学校教育
- 第11回 公立学校の実態
- 第12回 公立学校教員の職務実態と教員文化
- 第13回 生涯学習社会
- 第14回 子どもの貧困と教育
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 初回授業時に紹介する。

参考書 坂野慎二、高橋望他『学校教育制度概論』玉川大学出版会、2017年。
その他の参考書・参考資料等は授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

授業前：関連する雑誌、新聞記事等に目を通すよう心がけること。
授業後：配布した資料等を再度確認し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

試験、あるいはレポート(60%)と平常点(40%)により総合的に評価する。平常点は、講義内で実施するリアクションペーパー、授業態度・授業への貢献度等によって評価する。

履修上の注意

- 発言を求められることが多くなるので、自らの考えをもち、積極的に参加することを求める。
- 教育問題に関心を持ち、日頃から新聞等に目を通すことを求める。
- 授業と関係のない私語は厳禁とする。

科目名 発達心理学
Title Developmental Psychology
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員
非常勤講師 小池 庸生 (コイケ ノブオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1~4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

人間を理解するために、行動や心的機能の発生・発達成熟過程の一般的法則および各発達段階における心身の発達と学習の過程を学ぶと共に、障害者(児)の心身の発達・学習過程についても学ぶ。

達成目標

発達とは何かということから始めて、人の一生についての理解を深めること、さらに自分の将来像を構築するための指標にできることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション、講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 I. 発達心理学の基礎 1
- 第3回 I. 発達心理学の基礎 2
- 第4回 II. 身体と運動機能の発達 1
- 第5回 II. 身体と運動機能の発達 2
- 第6回 II. 身体と運動機能の発達 3
- 第7回 III. 知的機能の発達 1
- 第8回 III. 知的機能の発達 2
- 第9回 III. 知的機能の発達 3、IV. 人間性の発達 1
- 第10回 IV. 人間性の発達 2
- 第11回 IV. 人間性の発達 3、V. 社会性の発達 1
- 第12回 V. 社会性の発達 2
- 第13回 V. 社会性の発達 3、VI. 発達と学習 1
- 第14回 VI. 発達と学習 2、VII. 発達の障害と問題 1
- 第15回 VII. 発達の障害と問題 2、まとめ

教科書・参考文献

教科書 使用しない

参考書 適宜、講義内で紹介する

授業外での学習

発達心理学に関係する本を読むこと。
理解を薦めるために、子どもから大人までの行動をよく観察してみること。

評価方法

定期試験が 80%、講義内課題等授業に取り組む態度が 20%

履修上の注意

そのときどきの状況や必要性に応じて、授業計画を変更して行うことがある。

科目名 特別支援教育

Title

科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 五十嵐 一徳 (イガラシ カズノリ)

非常勤講師 村田 美和 (ムラタ ミワ)

E-Mail

配当年次
1~4

単位区分

単位数
2

開講時期
後期

目的

本講義は、特別な支援を必要とする子どもの教育を支える制度や教育上の仕組み、教育指導法の基礎的な知識と理解を得ることを目的とする。

達成目標

- ①通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を理解する。
- ②個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

スケジュール

- 第1回 特別の支援を必要とする子ども理解とは (担当:五十嵐一徳)
- 第2回 特別支援教育の概要とシステム (担当:五十嵐一徳)
- 第3回 子ども理解 (1) 自閉症スペクトラム障害・知的障害 (担当:五十嵐一徳)
- 第4回 子ども理解 (2) 言語障害・情緒障害 (担当:五十嵐一徳)
- 第5回 子ども理解 (3) LD・ADHD (担当:村田美和)
- 第6回 子ども理解 (4) 肢体不自由・病弱 (担当:村田美和)
- 第7回 子ども理解 (5) 視覚障害・聴覚障害 (担当:村田美和)
- 第8回 子ども理解 (6) その他多様な状態を併せもつ子ども (担当:村田美和)
- 第9回 子ども理解 (7) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子ども (担当:村田美和)
- 第10回 通常学級や通級指導教室等における教育的支援 (1) 個別の指導計画に基づく支援 (担当:五十嵐一徳)
- 第11回 通常学級や通級指導教室等における教育的支援 (2) ICT等の活用による支援 (担当:村田美和)
- 第12回 中学校・高等学校における特別な支援を必要とする生徒への支援 (担当:村田美和)
- 第13回 就労に向けた支援 (担当:村田美和)
- 第14回 関係機関との連携 (担当:五十嵐一徳)
- 第15回 特別の支援を必要とする子どものいる家族支援 (担当:五十嵐一徳)

教科書・参考文献

教科書 テキストはないが、必要に応じて資料を担当教員が配布する。

参考書 はじめての特別支援教育 改訂版
(柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子編著, 有斐閣)

授業外での学習

授業前: 関連するニュース等を視聴するよう心がけること。
授業後: 配布した資料等を確認し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

定期試験70%と毎回のリアクションペーパー30%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

履修上の注意

シラバスの内容や順序は、本講義の目的を逸脱しない範囲で変更されることがある。

科目名 カリキュラム論
Title Curriculum Studies
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員
名誉教授 池野 正晴 (イケノ マサハル)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 後期
-------------	-------------	----------	------------

目的

資質・能力ベースの新学習指導要領が告示され、新しい時代を迎えようとしている。これにより、各学校におけるカリキュラムが大きく変化してくるものと思われる。
授業では、学習指導要領を基準に各学校において編成されるカリキュラムについて、その意義や編成の方法、学習指導要領との関係、学習指導要領の変遷、カリキュラム・マネジメント等について考察を進めていくものとする。

達成目標

- 学校教育においてカリキュラムが果たす役割・機能・意義について理解できる。
- カリキュラム編成の基本原則及び学校の教育実践に即したカリキュラム編成の方法について理解できる。
- 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育全体をマネジメントすることの意義について理解できる。

スケジュール

- 第1回 「ある実践」からカリキュラムのあり方を考える
- 第2回 「カリキュラム論」×チェック(学習指導要領の変遷等)
- 第3回 いま、なぜ「カリキュラム」か - カリキュラム・マネジメント -
- 第4回 資質・能力ベースの学習指導要領と「総則」の読み方
- 第5回 学習指導要領の変遷I - 経験カリキュラム -
- 第6回 学習指導要領の変遷II - 学問中心カリキュラム -
- 第7回 学習指導要領の変遷III - 人間性中心カリキュラム -
- 第8回 カリキュラムにおける内容選択の基準と編成の原理
- 第9回 子どもの発達と教科書
- 第10回 教育環境と達成されたカリキュラム
- 第11回 カリキュラムの履修スタイル
- 第12回 教科カリキュラムと教科外カリキュラム
- 第13回 今日的課題への挑戦 - 近年のカリキュラム改革 -
- 第14回 諸外国のカリキュラム改革
- 第15回 総合討論 - カリキュラムづくりでたいせつにしたいこと -

教科書・参考文献

- 教科書
- 池野正晴『カリキュラム論』(池野作成の授業用冊子/配付)
 - 田中耕治編『よくわかる教育課程(改訂版)』、ミネルヴァ書房、2018年
- 参考書
- 文科省『中学校学習指導要領解説・総則編』、東山書房、2018年
 - 文科省『高等学校学習指導要領解説・総則編』(今後発行予定)

授業外での学習

- ① 次回の授業内容を確認し、その範囲を読み、そこでの専門用語等の意味を調べ、理解しておく。(予習)
- ② 授業後、授業内容をふり返し、重要事項をノートにまとめる。

評価方法

- 期末テスト 40%
- プレゼン資料の作成、及びプレゼンの内容全体 30%
- レポート及びミニレポート、コメント等 30%

履修上の注意

- チームで協力して、与えられたテーマについてレポートを作成し、プレゼンをする。
- めざす教師及び学ぶ学生として求められる「学ぶ力」(資質・能力)を鍛えることも射程に入れていく。
- ペアワーク及びグループワークに対して、積極的に参加し、自分の意見を表現するようにする。

科目名 道德教育論
Title Moral Education
科目区分 教職関連科目(両学部共通)

担当教員
非常勤講師 中山 和彦(ナカヤマ カズヒコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 前期
-------------	-------------	----------	------------

目的

栃木県小山市立公立小学校、宇都宮大学教育学部附属小学校における教員及び管理職経験及び小山市教育委員会指導主事としての教育施策立案経験を生かし、学校教育全体で行う道德教育とその要となる「特別の教科 道德」(以下 道德科とする)の意義と指導法、道德科授業の目標と指導法、学習指導案作成の手順と方法について指導する。また、道德の特別教科化の大きな要因となった「いじめ」の未然防止及び対処について、道德教育の観点から考える。

達成目標

(1) 道德の特別教科化の経緯を理解できるようになる。(2) 学校教育全体で行う道德教育の目標を理解できるようになる。(3) 道德教育の要となる道德科の目標を理解できるようになる。(4) 道德科授業の進め方と学習指導案作成の手順と方法がある分かるようになる。(5) 「いじめ」の未然防止及び対処法について理解できるようになる。

スケジュール

- 第1回 道德及び道德教育の本質
- 第2回 道德性とは何か、道德性の発達と教育
- 第3回 道德の特別教科化の経緯、道德教育と道德科の目標、道德の指導計画
- 第4回 道德科の特質を表すキーワードについて考える、道德科の内容と基本的性格
- 第5回 「いじめ」と道德教育、「いじめ」の未然防止及び対処法と学級経営における道德教育の進め方
- 第6回 担当者による模擬授業、「いじめの未然防止」を基に、道德科授業の進め方を理解する
- 第7回 道德科授業における指導過程の基本型、道德科の特質を大切にされた柔軟な授業構想(第1回)
- 第8回 道德科の特質を大切にされた柔軟な授業構想(第2回)、学習指導案作成の手順と方法(第1回)
- 第9回 学習指導案作成の手順と方法(第2回)、本時の展開案作成(グループ協議、個別指導)(第1回)
- 第10回 本時の展開案作成(グループ協議、個別指導)(第2回)、本時の展開についてポイントをまとめる
- 第11回 道德科の板書の理論と方法、代表者による模擬授業と全体協議(第1回)
- 第12回 代表者による模擬授業と全体協議(第2回)、道德科授業づくりのポイント
- 第13回 道德科授業づくりと評価(第1回)
- 第14回 道德科授業づくりと評価(第2回)
- 第15回 道德科授業づくりと評価(指導要録と学びの姿への記述)、講義全体のまとめ

教科書・参考文献

教科書 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道德編(文部科学省)発行所 教育出版

参考書 『私たちの道德 中学校』 文部科学省

授業外での学習

- ・ 次回に使用する資料を事前に配布するので、一読して講義に臨むこと。
- ・ 講義で示す「重要事項」の内容等を復習する。

評価方法

定期試験80%、受講態度20%(リアクションカード記述内容に自身の考えを明記10%、自ら発言する等の態度10%)計100%

履修上の注意

- ・ 道德は、教師と生徒共通の課題であることを自覚して講義に臨む。
- ・ 中学校の教室と同じ状況をつくり、生徒への関わり方を学べるようにする。
- ・ 講義担当者として「遅刻なし、延長なし」を守る。学生は私語厳禁、話を聴く力、自らの考えを表現する力を身に付けることに力を入れること。

科目名 総合的な学習の時間の指導法

Title

科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

准教授 内山 知一 (ウチヤマ トモカズ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1~4

単位区分

単位数
2

開講時期
前期

目的

本授業の目的は、中学校・高等学校における総合的な学習の時間の意義や課題を理解するとともに、学校での経験を元にした学び等も踏まえて、実践的指導力を養うことである。

達成目標

1. 中学校・高等学校における総合的な学習の時間の意義や課題を理解する。
2. 年間指導計画の作成や評価も含む、総合的な学習の時間に関する実践的指導力を養う。

スケジュール

1. 中学校・高等学校における総合的な学習の時間の位置づけ
2. 学習指導要領の検討と総合的な学習の時間で育成する資質・能力
3. 総合的な学習の時間における学習指導の基本 (1) 探究的な学習等
4. 総合的な学習の時間における学習指導の基本 (2) 横断的・総合的な学習等
5. 総合的な学習の時間における学習指導の基本 (3) その他の学習
6. 総合的な学習の時間における年間指導計画の作成 (1) テーマの設定方法等
7. 総合的な学習の時間における年間指導計画の作成 (2) その他の教科・教育活動との関連付け
8. 総合的な学習の時間における内容
9. 総合的な学習の時間における学習評価
10. 中学校総合的な学習の時間における模擬授業 (1)
11. 中学校総合的な学習の時間における模擬授業 (2)
12. 中学校総合的な学習の時間における模擬授業 (3)
13. 高等学校総合的な学習の時間における模擬授業 (1)
14. 高等学校総合的な学習の時間における模擬授業 (2)
15. 本授業の振り返りとまとめ

教科書・参考文献

教科書 授業中に適宜資料を配布する。

参考書 文部科学省『中学校学習指導要領』(2017年)
文部科学省『高等学校学習指導要領』(2009年)

授業外での学習

予習・復習をしっかりと行い、その内容を踏まえて授業に臨むこと。

評価方法

授業への参加度 (模擬授業や提出物等 : 60%)
試験(40%)

履修上の注意

事前に十分に準備をした上で、受講してください。

科目名 特別活動
Title Extraclass Activities
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員
非常勤講師 石塚 忠男 (イシヅカ タダオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 前期
-------------	-------------	----------	------------

目的

現在の子どもたちは、自分に自信が持てず、人間関係に不安を感じたり、好ましい人間関係を築けず人間性や社会性の育成に十分とはいえない状況がみられる。特別活動は、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築くとともに公共の精神を養い、社会性の育成を図るといった特質を踏まえることが前提になる。そして、よりよい人間関係を築く力や社会に参画する態度、教師の適切な指導を下に自治的能力の育成を図らなければならない。そのためには、特別活動の目標を理解するとともに、各内容の活動を通して育てたい態度や能力を明確にする。

達成目標

特別活動は、教科学習と同様に人格形成に重要な分野である。特に、実生活・実社会に直結する特別活動の教育的意義を明確にし、ややもするとまちまちになっている各内容の特質に応じた指導法を体得することはもとより、自主的、実践的な活動について具体的な活動の構想が立てられるようにする。

スケジュール

- 第1回 学習指導要領の改訂と子どもたちの現状
- 第2回 受講生の特別活動による体験を情報交換し、人格形成上の影響力の理解
- 第3回 平成20~29年度特別活動の成果と課題からの改善事項
- 第4回 特別活動の目標と「人間関係形成(力)」「社会参画(力)」「自己実現(力)」
- 第5回 学校生活における集団活動・体験活動の実践事例を視聴(DVD)
- 第6回 特別活動と教育活動<<各教科等>>全体との関連
- 第7回 自発的、自治的な活動の特質とする学級活動の内容(1)
- 第8回 学級活動の内容(1)の実践事例(話し合い活動=学級会)を視聴(DVD)
- 第9回 集団思考の話し合い活動の特質とする学級活動の内容(2)
- 第10回 意思決定に基づく活動の特質とする学級活動の内容(3)
- 第11回 異年齢の集団活動による自治的な活動の特質とする生徒会活動
- 第12回 学校や地域の実情に即した部活動(小学校はクラブ活動)の運営
- 第13回 学校の特色(文化や伝統)を生かし校風づくりをする学校行事
- 第14回 特別活動における指導計画(P)、実践活動(D)、振り返り(C)、改善(A)
- 第15回 模擬学級会(話し合い活動)を体験する

教科書・参考文献

教科書 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」文部科学省 平成29年7月

参考書 「学級・学校文化を創る特別活動 中学校編」文部科学省 平成28年4月(東京書籍)

授業外での学習

適宜、講義内容に関する課題等を課す

評価方法

出席状況、講義後半のレポート作成、定期試験の結果等により総合的に評価

履修上の注意

定期試験の資格には、原則として講義2/3以上の出席(受講)を要する

科目名 特別活動
Title Extraclass Activities
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員
非常勤講師 田口 哲男 (タグチ テツオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 後期
-------------	-------------	----------	------------

目的

改訂された学習指導要領の特別活動の第1「目標」を踏まえ、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、各活動・学校行事で生じる多様な集団において、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の3つの視点を手掛かりとしながら、集団や自己の生活上の課題を解決する学習の過程を通して資質・能力を育成することについて学ぶ。

達成目標

「学習指導要領改訂の経緯や方針」「集団や社会の形成者としての見方・考え方」「育成を目指す資質・能力」等を知識として理解するとともに、自身の中学・高校での経験を基に各活動や学校行事より生じる多様な集団において発見した課題を解決する学習の過程を通すことにより、特別活動で目指す資質・能力を育成するための指導の仕方を講義やグループワークにより学ぶ。また、毎回のグループワークを通して主体性、協働性、多様性をつける

スケジュール

- 第1回 授業全体の概要、教育改革の必要性、学習指導要領改訂の経緯
- 第2回 学習指導要領改訂の基本方針、改訂の要点
- 第3回 学力の3要素、育成を目指す資質・能力とその明確化
- 第4回 教育課程(各教科・科目、道徳教育、総合的な探究の時間、特別活動)
- 第5回 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、カリキュラム・マネジメント
- 第6回 特別活動にかかる改訂の趣旨及び要点
- 第7回 特別活動の目標(学習の過程・育成を目指す資質・能力など)
- 第8回 特別活動全体と各活動・学校行事との関連、特別活動における「主体的・対話的で深い学び」
- 第9回 特別活動の基本的な性格と教育活動全体の中での特別活動の意義)
- 第10回 特別活動と各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などとの関連
- 第11回 学級活動の目標、内容、指導計画
- 第12回 生徒会活動の目標、内容、指導計画
- 第13回 学校行事の目標、内容、指導計画
- 第14回 特別活動の配慮事項
- 第15回 特別活動における評価

教科書・参考文献

- 教科書 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編(平成29年7月)
高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編(平成30年7月)
- 参考書 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編(平成29年7月)
高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編(平成30年7月)

授業外での学習

中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編と総則編、「高校生に確かな学力をつける」を精読する。アイスブレイクのシナリオを考案し授業の中で紹介できるようにする。

評価方法

「グループワークの状況、リフレクションシートの提出、レポートの提出」(40%)、「期末試験の結果」(60%)。

履修上の注意

講義後の振り返りシートは毎回提出する。

科目名 教育方法学
Title Methodology of Teaching
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

准教授 内山 知一 (ウチヤマ トモカズ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 前期
-------------	-------------	----------	------------

目的

本授業の目的は、授業や教育方法の歴史や諸理論、実践事例などの検討を通して、教育の方法、教育の技術、教材及び情報機器の活用に関する基礎的な内容を理解し、授業設計を行うことで、授業づくりにおける基礎的スキルを身につけることである。

達成目標

1. 教育方法の基礎的な理論を理解する。
2. 授業実践を理論的な見地から考察する。
3. 優れた授業や学習指導案の検討を通して、授業づくりの基礎的なスキルを身につける。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：「教育方法」とは
- 第2回 授業の歴史
- 第3回 さまざまな学習形態とその理論
- 第4回 教育方法の新動向
- 第5回 教師の技術（発問、板書等）と子どもの意欲
- 第6回 教材と教材研究の意味
- 第7回 学習環境（学級、教室等）の多様化
- 第8回 メディアリテラシー
- 第9回 ICTとその活用（授業におけるICTの活用事例を扱う）
- 第10回 学習評価のあり方
- 第11回 授業研究と授業分析
- 第12回 授業設計①（学習指導案の作成）
- 第13回 授業設計②（学習指導案の発表・検討）
- 第14回 授業設計③（授業デザインのふりかえり）
- 第15回 本授業のまとめ（これからの学びのスタイルの追求）

教科書・参考文献

教科書 授業中に適宜資料を配布する。

参考書 文部科学省『中学校学習指導要領』（2017年）
文部科学省『高等学校学習指導要領』（2009年）

授業外での学習

予習・復習をしっかりと行い、その内容を踏まえて授業に臨むこと。

評価方法

授業への参加度（発表や提出物等：60%）
試験（40%）

履修上の注意

事前に十分に準備をした上で、受講してください。

科目名 教育測定及び方法
Title Educational Measurement and Method
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

教授 担当教員 木下 まゆみ (キノシタ マユミ) 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4 単位区分 要件外 単位数 2 開講時期 前期

目的

この科目では、教育において必要な測定法と評価について学習する。具体的には、1.教育測定と教育評価、2.性格、3.知能、4.統計、5.データ分析に関して学習する。各回の授業は、時間内でレポートを作成、提出する。提出されたレポートは次週評価とともに返却する。この一連の作業により、文章力の向上を目指すことも本授業の目的とする。

達成目標

教育評価に関する各種理論の知識を深め、実践に貢献する教育評価のあり方を理解する。統計学的な知識およびパソコンによる統計技能を習得する。授業内レポート作成を通じて、文章力の向上を図る。

スケジュール

- 第1回 教育測定の概要 - 測定と評価 -
- 第2回 授業内レポートの書き方
- 第3回 教育評価の種類1 相対評価と絶対評価
- 第4回 教育評価の種類2 パフォーマンス評価
- 第5回 知能の理論1 (検査法)
- 第6回 統計学の基礎知識1 (Σ 計算、平均と分散)
- 第7回 統計学の基礎知識2 (標準化、偏差値)
- 第8回 統計学実習① (小テスト、平均、SD)
- 第9回 統計学実習② (標準得点、偏差値)
- 第10回 人格検査実習① (測定実習、表の作成)
- 第11回 人格検査実習② (関数の利用、検査結果の判断)
- 第12回 人格の理論 - 遺伝説と環境説 -
- 第13回 教育評価の実際 (学級運営)
- 第14回 教育評価の活用 (評価と実践の連携)
- 第15回 総括授業

教科書・参考文献

教科書 授業中にプリントを配布する。

参考書 田中 耕治 『教育評価』 岩波書店
吉田 寿夫 『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書

授業外での学習

返却したレポートの講評をよく読み、文章作成についての理解を深めること。できるかぎり再提出を図ること。

評価方法

授業内レポート (70%)、実習レポート (20%)、および小テスト (10%)。期末試験は課さない。

履修上の注意

統計学実習の回はPCを使うため、教室を変更します。移動先は授業内で指示するので注意して下さい。

科目名 生徒・進路指導論
Title Student Guidance and Carrier Guidance
科目区分 教職関連科目(両学部共通)

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 飯野 真幸(イイノ マサキ)

E-Mail

配当年次 1~4 単位区分 単位数 2 開講時期 前期

目的

生徒指導及び進路指導は、教師にとって、教科指導とともに非常に重要な分野である。特に、近年、児童生徒や保護者を巡る状況には非常に厳しいものがあり、生徒指導(広義では進路指導も含む。)の力量の高い教師の養成は急務となっている。この科目では未来を担う児童生徒を正しく導くことのできる高い資質を持った指導者の養成を目指す。

達成目標

学校教育において基本的かつ総合的な教育活動である生徒指導と進路指導の意義及び今日的課題についての理解を深めるとともに、課題解決の方策等を学ぶなかで、信頼される教師となるための実践力を養う。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 生徒指導とは何か
- 第3回 諸外国の生徒指導
- 第4回 生徒指導と校内体制
- 第5回 生徒指導の現状
- 第6回 生徒指導上の問題を考える① いじめ問題
- 第7回 生徒指導上の問題を考える② 高崎市のいじめ防止の取組
- 第8回 生徒指導上の問題を考える③ 不登校、自殺問題等
- 第9回 生徒指導総括 プレゼン
- 第10回 進路指導とは何か(諸外国の進路指導を含む)
- 第11回 進路指導とキャリア教育
- 第12回 進路指導と校内体制
- 第13回 進路指導上の問題を考える
- 第14回 進路指導総括 プレゼン
- 第15回 学校教育の今後の展望等

教科書・参考文献

教科書 自作テキスト

参考書 学習指導要領(文部科学省)、生徒指導提要(文部科学省)その他随時紹介する。

授業外での学習

本学のように教員養成を主たる目的としない大学にあっては、自ら教育問題に関心を持ち、様々な情報を積極的にキャッチすることが重要である。そのためにも、新聞は毎日読む習慣を付けてほしい。

評価方法

定期考査 60% 努力点(レポート、プレゼン等) 40%

履修上の注意

教師の言動は児童生徒の人格形成に大きな影響を与える。特に、生徒指導は正義感や倫理観が強く求められる。故に、いい加減な気持ちでの受講は堅くお断りする。授業中の居眠り、飲食、SNS等は厳禁する。

科目名 生徒・進路指導論
Title Student Guidance and Carrier Guidance
科目区分 教職関連科目(両学部共通)

担当教員 山口 知彦(ヤマグチ トモヒコ)
非常勤講師 山口 知彦(ヤマグチ トモヒコ)
担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1~4	要件外	2	前期

目的

県立高校での勤務経験(教員・管理)及び教育行政での政策立案経験を活かし、現場に必要な児童生徒の人間形成を図る考え方や指導法及び現代的教育課題に精通できるように講義をする。講義では、生徒指導・進路指導の意義・原理や具体的な指導の基礎を学び、将来の教育者としてさらに学び続けるための踏み台とする。

達成目標

- 1 生徒指導の意義や原理、生徒指導の進め方及び生徒理解の方法を理解する。
- 2 生徒指導に基づく学級(ホームルーム)経営の方法や生徒指導上の諸課題への対応の在り方を理解する。
- 3 進路指導・キャリア教育の意義やねらい・進め方を理解する。
- 4 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。

スケジュール

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 科目ガイダンス、生徒指導の今日的な課題検討、生徒指導・進路指導の重要性 |
| 第2回 | 生徒指導の意義と目的、学習指導要領と生徒指導提要の視点 |
| 第3回 | 生徒指導の方法(生徒理解と生徒指導体制) |
| 第4回 | 生徒指導の法制、生徒指導の在り方と課題 |
| 第5回 | 生徒指導の事例研究①(不登校、いじめ、ネット問題) |
| 第6回 | 生徒指導の事例研究②(暴力行為、校則違反、中途退学) |
| 第7回 | 教育相談の意義と目的、教育相談の在り方と課題 |
| 第8回 | 進路指導・キャリア教育の意義と目的 |
| 第9回 | 職業選択理論と職業適応理論及び職業的発達と自己概念の形成 |
| 第10回 | キャリア教育の実践と理論 |
| 第11回 | キャリア発達に併せた実践、フリーター・ニート問題への対応(事例研究) |
| 第12回 | 学級(ホームルーム)経営の意義と目的、学級(ホームルーム)経営理論と方法 |
| 第13回 | 生徒指導に基づく学級(ホームルーム)経営の進め方・評価
クラスづくりのポイント(事例研究) |
| 第14回 | 学級(ホームルーム)経営の在り方と課題、学級崩壊への対応(事例研究) |
| 第15回 | 特別支援が必要な生徒への対応、学校安全と危機管理 |

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。配布プリントに沿って講義を進める。

参考書 「生涯学習時代の生徒指導・キャリア教育」編者 西岡正子、桶谷守 教育出版
「中学校学習指導要領解説・高等学校学習指導要領解説」(総則編) 文部科学省

授業外での学習

次の講義の内容についての関連書籍及び講義プリント(事前配布)を一読するとともに、その内容にかかわること、過去身近に起こった事例があれば教師の視点でその事例の分析と対応を検討する。

評価方法

期末テスト 60%、日常点(課題・レポート、取組状況等)40%

履修上の注意

今日の教育問題に日頃より注目しつつ、授業には常に課題意識をもって臨み、緊張感と集中力のある授業態度で積極的に取り組むこと。特に、遅刻、欠席、私語、携帯電話等は厳に慎み、学生としてのマナーを守ること。

科目名 教育相談
Title School Counseling
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員
非常勤講師 石塚 忠男 (イシヅカ タダオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 前期
-------------	-------------	----------	------------

目的

教育相談は、一人一人の子どもの教育上の問題について、本人や保護者などに、その望ましいあり方を助言することであり、子どもの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせて人格の成長を図るものである。
学校における教育相談は、専門機関のように本人や保護者から自発的に相談に来るのを待つだけでなく、小さな兆候をとらえて事案に応じて適切に対応し、深刻な状態になる前に早期に対応することが可能である。学級担任の学級経営をはじめ、様々な立場の教師の日常の観察やかわりのもち方を理解する。

達成目標

教育相談や学校カウンセリングの教育的意義を押さえ、子どもたちが学校生活において適応できるよう対応策を理解する。また、不適応を起こした場合の対応策、保護者との連携の在り方を理解する。

スケジュール

- 第1回 子ども社会の現状と教育相談・カウンセリングの役割
- 第2回 学級担任が中心的な役割を担う教育相談における学級経営の構想と内容
- 第3回 学級集団経営(人間関係)における子ども理解と支援
- 第4回 学校が一体となった校内体制づくりと学級担任のかかわり
- 第5回 児童・生徒理解、支援のための観察
- 第6回 保護者との連携(授業参観・懇談会、家庭訪問、面談、学級通信等)
- 第7回 カウンセリングを生かした授業・学習づくり
- 第8回 教育相談における面接の進め方
- 第9回 気になる子どもの事例と対応・指導についてグループ討議「学習指導」①
- 第10回 気になる子どもの事例と対応・指導についてグループ討議「人間関係」②
- 第11回 気になる子どもの事例と対応・指導についてグループ討議「いじめ」③
- 第12回 気になる子どもの事例と対応・指導についてグループ討議「社会適応」④
- 第13回 気になる子どもの事例と対応・指導についてグループ討議「性格・特性」⑤
- 第14回 気になる子どもの事例と対応・指導についてグループ討議「生活習慣」⑥
- 第15回 保護者のクレーム、虐待、過保護・放任などの対応

教科書・参考文献

教科書 特になし(講義時に資料配布)

参考書 「生徒指導提要」文部科学省刊など適宜紹介

授業外での学習

適宜、講義内容に関する課題等を課す

評価方法

出席状況、講義後半のレポート作成、定期試験の結果等により総合的に評価

履修上の注意

定期試験の資格には、原則として講義2/3以上の出席(受講)を要する

科目名 教育実習I
Title Practice Teaching I
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員 内山 知一 (ウチヤマ トモカズ)
准教授 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 4 単位区分 要件外 単位数 5 開講時期 通年

目的

教育実習の事前準備・事後省察等を通して、教師として必要な知識・技能等と自らの課題を理解し、教師として最低限求められる実践力を身につける。

達成目標

・ 学校現場において教師の仕事を構成する多様な要素 (教科指導、生徒指導、校務分掌、特別活動、委員会活動、部活動等) を理解する。
・ 教育実習後の振り返り等を通して、教師として必要な課題に気づき、その改善に向け、自らの資質・能力を高める。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス (前期)
- 第2回 教師の多様な仕事と教育実習
- 第3回 教育実習での注意点と身につけるべき力
- 第4回 学習指導要領の概観
- 第5回 学習指導案の作成
- 第6回 模擬授業①
- 第7回 模擬授業②
- 第8回 模擬授業③
- 第9回 模擬授業④
- 第10回 模擬授業⑤
- 第11回 模擬授業⑥
- 第12回 模擬授業⑦
- 第13回 模擬授業⑧
- 第14回 模擬授業⑨
- 第15回 模擬授業⑩
- 第16回 ガイダンス (後期)
- 第17回 教育実習後の課題の検討① 授業の検討 : 学習指導案に着目して
- 第18回 教育実習後の課題の検討② 授業の検討 : 学習指導案に着目して
- 第19回 教育実習後の課題の検討③ 授業の検討 : 教材研究に着目して
- 第20回 教育実習後の課題の検討④ 授業の検討 : 教材研究に着目して
- 第21回 教育実習後の課題の検討⑤ 授業の検討 : 発問に着目して
- 第22回 教育実習後の課題の検討⑥ 授業の検討 : 発問に着目して
- 第23回 教育実習後の課題の検討⑦ 教師の仕事の多様性に着目して
- 第24回 教育実習後の課題の検討⑧ 教師の仕事の多様性に着目して
- 第25回 教育実習後の課題の検討⑨ 教育実習と大学での学びを踏まえた自らの課題の把握
- 第26回 教育実習後の課題の検討⑩ 教育実習と大学での学びを踏まえた自らの課題の把握
- 第27回 これからの学校に求められる教師像① 新学習指導要領に着目して
- 第28回 これからの学校に求められる教師像② 事例検討
- 第29回 教育実習後に必要な学びと自らの課題改善に向けた計画立案
- 第30回 本授業のまとめ

教科書・参考文献

教科書 「高崎経済大学・教育実習の手引き」

参考書 授業中に適宜資料を配布する。

授業外での学習

予習・復習をしっかりと行い、その内容を踏まえて授業に臨むこと。

評価方法

授業への参加度 (模擬授業や提出物等 : 60%)
レポート (40%)

履修上の注意

事前に十分に準備をした上で、受講してください。

科目名 教育実習II
Title Practice Teaching II
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員 内山 知一 (ウチヤマ トモカズ)
准教授 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 4 単位区分 要件外 単位数 3 開講時期 通年

目的

教育実習の事前準備・事後省察を通して、自らの課題や教師として必要な技能、知識等を理解し、学校での経験を元にした学び等も踏まえて、教師として最低限求められる実践力を身に付ける。

達成目標

- ・ 学校現場において教師の仕事を構成する多様な要素 (教科指導、生徒指導、校務分掌、特別活動、委員会活動、部活動等) を理解する。
- ・ 教育実習後の振り返り等を通して、教師として必要な課題に気づき、その改善に向け、自らの資質・能力を高める。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス (前期)
- 第2回 教師の多様な仕事と教育実習
- 第3回 教育実習での注意点と身につけるべき力
- 第4回 学習指導要領の概観
- 第5回 学習指導案の作成
- 第6回 模擬授業①
- 第7回 模擬授業②
- 第8回 模擬授業③
- 第9回 模擬授業④
- 第10回 模擬授業⑤
- 第11回 模擬授業⑥
- 第12回 模擬授業⑦
- 第13回 模擬授業⑧
- 第14回 模擬授業⑨
- 第15回 模擬授業⑩
- 第16回 ガイダンス (後期)
- 第17回 教育実習後の課題の検討① 授業の検討 : 学習指導案に着目して
- 第18回 教育実習後の課題の検討② 授業の検討 : 学習指導案に着目して
- 第19回 教育実習後の課題の検討③ 授業の検討 : 教材研究に着目して
- 第20回 教育実習後の課題の検討④ 授業の検討 : 教材研究に着目して
- 第21回 教育実習後の課題の検討⑤ 授業の検討 : 発問に着目して
- 第22回 教育実習後の課題の検討⑥ 授業の検討 : 発問に着目して
- 第23回 教育実習後の課題の検討⑦ 教師の仕事の多様性に着目して
- 第24回 教育実習後の課題の検討⑧ 教師の仕事の多様性に着目して
- 第25回 教育実習後の課題の検討⑨ 教育実習と大学での学びを踏まえた自らの課題の把握
- 第26回 教育実習後の課題の検討⑩ 教育実習と大学での学びを踏まえた自らの課題の把握
- 第27回 これからの学校に求められる教師像① 新学習指導要領に着目して
- 第28回 これからの学校に求められる教師像② 事例検討
- 第29回 教育実習後に必要な学びと自らの課題改善に向けた計画立案
- 第30回 本授業のまとめ

教科書・参考文献

教科書 「高崎経済大学・教育実習の手引き」

参考書 授業中に適宜資料を配布する。

授業外での学習

予習・復習をしっかりと行い、その内容を踏まえて授業に臨むこと。

評価方法

授業への参加度 (模擬授業や提出物等 : 60%)
レポート (40%)

履修上の注意

事前に十分に準備をした上で、受講してください。

科目名 教職実践演習(中・高)
Title Seminar of Teacher Professional Practice
科目区分 教職関連科目(両学部共通)

担当教員 内山 知一(ウチヤマ トモカズ)
准教授 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

本授業の目的は、これまでの教職課程等における内容の振り返りを通して、教員として最低限必要な資質能力の獲得における自己の課題を自覚し、学校での経験を元にした学び等も踏まえて、有用な技能、知識等を身に付けることである。

達成目標

1. これまでの教職課程等における学びを振り返り、身につけたことを再確認する。
2. 教員として最低限必要な資質能力の獲得における自己の課題を自覚し、有用な技能、知識等を身に付ける。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：教職実践演習とは
- 第2回 現代的な学校教育の課題(1) 最新の教育課題
- 第3回 現代的な学校教育の課題(2) 教育課題に関する話し合い
- 第4回 職業としての教員
- 第5回 学級経営の在り方
- 第6回 生徒指導・教育相談
- 第7回 特別な支援を要する児童・生徒の指導
- 第8回 教科の授業(1) 授業構想
- 第9回 教科の授業(2) 教材研究
- 第10回 教科の授業(3) 模擬授業
- 第11回 特別活動の授業(1) 授業構想
- 第12回 特別活動の授業(2) 教材研究
- 第13回 特別活動の授業(3) 模擬授業
- 第14回 模擬授業の振り返り
- 第15回 教職実践演習の振り返りとまとめ

教科書・参考文献

教科書 授業中に適宜資料を配布する。

参考書 文部科学省『中学校学習指導要領』(2017年)
文部科学省『高等学校学習指導要領』(2009年)

授業外での学習

予習・復習をしっかりと行い、その内容を踏まえて授業に臨むこと。

評価方法

授業への参加度(模擬授業や提出物等：60%)
レポート(40%)

履修上の注意

事前に十分に準備をした上で、受講してください。

科目名 教職実践演習(中・高)
Title Seminar of Teacher Professional Practice
科目区分 教職関連科目(両学部共通)

教授 担当教員 木下 まゆみ(キノシタ マユミ) 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
4	要件外	2	後期

目的

これまでの学習を振り返り、教科指導のさらなる知識・技能を身に付け、教職に関する理解を深める。また、これらと同時に、生徒理解の基盤となるコミュニケーションに関する能力を高める。以上を通じて、自身の教師としての資質を再認識する。

達成目標

大学において学んだ教職に関する知識と、教育実習等で得た実践的技能の定着と向上を目指し、教師としての人格的・社会的・指導的資質のより一層の研鑽を図る。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教育実習の振り返り① マインドマップ発表
- 第3回 教育実習の振り返り② マインドマップ発表
- 第4回 教職の理解① アイディアの創出とグループ化(KJ法)
- 第5回 教職の理解② グループの概念化と構造化(KJ法)
- 第6回 コミュニケーション① 相互作用性の理解と実習
- 第7回 コミュニケーション② 非言語的行動の理解と実習
- 第8回 教育評価① 学力とその評価
- 第9回 教育評価② パフォーマンス評価と逆向き設計
- 第10回 教育評価③ パフォーマンス課題の作成
- 第11回 教育評価④ 模範解答の作成
- 第12回 教育評価⑤ 評価基準(ルーブリック)の作成
- 第13回 教育評価⑥ 成果発表
- 第14回 教職の理解③ ロールレタリング
- 第15回 総括授業

教科書・参考文献

教科書 授業時に指示

参考書 授業時に紹介

授業外での学習

教育に関するニュースに常日頃から関心を持ち、積極的に情報収集を行うこと。授業で扱う様々なコミュニケーションスキルについて、普段の生活の中でも意識し、実践すること。

評価方法

レポート及びプレゼンの内容、演習授業への参画度、参画姿勢等により総合的に評価する。教員としての最小限必要な資質・能力が身についているかを確認し、単位認定を行う。

履修上の注意

グループ作業、対話を中心に授業を進めます。積極的な参加を期待します。

科目名 職業指導
Title Guidance of Vocational Education
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

担当教員
非常勤講師 大嶋 伊佐雄 (オオシマ イサオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1~4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

学校現場および教育指導行政における教育経験を活かして、職業指導・進路指導・キャリア教育における具体的な課題や対応を指導する。

生徒自らが進路について、主体的に考え、活動し、選択・決定できるよう、その発達段階を踏まえて組織的・計画的・継続的に指導・支援する方法を考察させる。全校を挙げて取り組む指導体制の構築について理解を深める。

総合的な学習の時間やホームルーム活動(学級活動)における進路指導計画の立案とその指導法などについて考察させる。これらの内容を通して、教師として求められている実践的指導力を身に付ける。

達成目標

1. 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解するとともに、その説明ができる。
2. 学校教育における職業指導・進路指導・キャリア教育の変遷及び基礎理論が理解できる。
3. 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。
4. 特別活動及び総合的な学習の時間を活用した進路指導計画を作成できる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス・職業指導とは何を学ぶのか
- 第2回 職業指導の概念
- 第3回 職業指導・進路指導・キャリア教育の歴史と展開
- 第4回 わが国の職業指導・進路指導・キャリア教育の歴史的発展
- 第5回 職業指導・進路指導・キャリア教育の基礎理論
- 第6回 職業指導・進路指導・キャリア教育の基本理念と性格
- 第7回 進路指導・キャリア教育の諸活動
- 第8回 進路指導・キャリア教育の組織と運営
- 第9回 進路指導・キャリア教育の計画と実践(情報機器の活用)
- 第10回 学校と家庭・地域・諸機関との連携・協力
- 第11回 キャリア・カウンセリングの理論・技法とその活用
- 第12回 進路指導・キャリア教育のアセスメント
- 第13回 産業界・労働界における職業指導とキャリア・ガイダンス
- 第14回 キャリア教育と商業教育の在り方
- 第15回 キャリア教育の課題と展望

教科書・参考文献

教科書 特定の教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

参考書 「進路指導・キャリア教育の理論と実践」(吉田辰雄他著、日本文化科学社)
「高等学校学習指導要領解説 特別活動編(平成21年7月)」(文部科学省、海文堂出版)

授業外での学習

社会における職業構造について、常時様々な資料や情報の入手と分析を心がけ、キャリア・ガイダンスの多面的な理解を深めること。

評価方法

定期試験(80%)、レポート課題とその発表(10%)、授業への参加度(態度・意欲など10%)、

履修上の注意

特になし

科目名 介護等体験実習
Title Internship for Care and Nursing
科目区分 教職関連科目 (両学部共通)

教授 担当教員 細井 雅生 (ホソイ マサオ) 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2~4 単位区分 要件外 単位数 1 開講時期 通年

目的

小学校及び中学校教諭の普通免許状に係る教育職員免許法の特例等に関する法律(平成9年法律第90号)が制定され、小学校又は中学校教諭の普通免許状を取得するためには、特別支援学校及び社会福祉施設等においての実習が義務づけられました。この科目は、この規定に従い展開されます。実習における意義などについては、講義で説明を行います。

■注意点

この科目を履修・登録ができる者は小学校又は中学校教諭の普通免許状を取得する人のみが対象となります。講義等の具体的日時の連絡は、掲示板を通して行います。掲示板の見忘れ、見落としによる遅刻・欠席は、認められませんので十分に注意をしてください。

達成目標

- ①教育実習の一環としての体験実習であることを理解し、課題を設定できる。
- ②介護について考えることができる。
- ③共生社会、ノーマライゼーション社会の構築に対して、教員の役割を考えることができる。

スケジュール

前年度12月: オリエンテーション①

介護等体験実習(中学校免許取得意志)の確認
群馬県社会福祉協議会との連絡調整開始のための準備

当該年度 4月: (1) オリエンテーション②

事務局よりオリエンテーション 資料配付

※ 第1週よりオリエンテーションを行う予定 正当な理由がなく遅刻・欠席をした場合、以後の本年度の学習が継続できなくなるので注意してほしい。

(2) 特別支援学校体験実習事前指導

介護等体験実習の意義とねらい

教育実習の一環としての体験実習の意義

事前学習レポート課題①の提示

※例年4月下旬頃から特別支援学校体験実習が開始される

6月: (1) オリエンテーション③

事務局よりオリエンテーション 資料配付

(2) 社会福祉施設実習事前指導①

事前学習レポート課題②の提示

7月: (1) 社会福祉施設実習事前指導②

事前学習レポート課題③の提示

8~9月: 社会福祉施設実習(5日間)

事前学習レポート課題③の提示

11月以降すべての実習が終了後事後指導

最終レポート課題④の提示

※ 担当者は、細井雅生 熊澤利和

平成31年度は細井が担当

教科書・参考文献

教科書 教科書① 『よくわかる社会福祉施設 - 教員免許志願者のためのガイドブック (第4版)』全国社会福祉協議会 2015

参考書 教科書② 全国特別支援学校長会編 『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』シアース教育新社 2014 その他、講義中に指示をします。

授業外での学習

予習内容については授業中に指示するので、必ず調べてくること

評価方法

所定のオリエンテーション、講義及び所定の実習を、すべて出席をすることを前提に、レポート、実習ノート、受講態度等を参考にしながら、教員が行う評価及び実習施設の指導者による評価から総合的に評価を行います。

履修上の注意

オリエンテーション及び講義に、出席できない場合は事前に欠席理由書を提出してください。なお、当日病気等でやむを得ない事情(アルバイトは不可)により出席できない場合は、必ず本人が連絡してください。正当な理由がなく、かつ連絡がない遅刻・欠席の場合、該当年度の介護等体験実習は、取り消しとなります。